

027  
317  
1

古  
詩  
音

禁  
出

029  
317  
1

專女知愛  
第 11528 號  
書 圖

四三三

夜月五日

8251  
102



八寅舞村下流

八十五宗壽

羊穿虎

德

壽

布袋月う契大北下名と桶夢  
比行路布囊成之月行し  
纏醜魚祖糸口不入而苟小

峰の松を素り僧俗一致子  
とせの法君子也芭蕉山禪  
所下山胸中之阡陌松林  
を曳而又若嶽之上堂一  
川下坐又或深川之芭蕉  
莊子に参る千里を度節  
に鼓い音眼浅くして  
子来凡ん見ても原内  
山ととの下つて一筆表分

砒して終み禪して苦を忍ぶ  
晋其角子あり其空はく  
一と道ふ所懐無む人  
元氣を新程ヲ後小く白  
凡を魁とるし身祇疎可  
呼而中莖齋只且子志家  
羊啼庵中之放人也年今  
同良也當時今之只情之  
水に縞してて可く暖を

有り子孫振々兮天地之性  
 人<sup>ヲ</sup>為<sup>ス</sup>人<sup>ノ</sup>之<sup>ノ</sup>行<sup>ハ</sup>莫<sup>ク</sup>大<sup>ニ</sup>孝<sup>ニ</sup>  
 干<sup>シ</sup>時<sup>ヲ</sup>切<sup>ル</sup>有<sup>ル</sup>同<sup>ノ</sup>門<sup>ニ</sup>連<sup>ル</sup>社<sup>ニ</sup>小<sup>ノ</sup>乞<sup>ノ</sup>句<sup>ヲ</sup>  
 象<sup>ノ</sup>到<sup>ル</sup>亦<sup>モ</sup>容<sup>ニ</sup>同<sup>ノ</sup>髮<sup>ヲ</sup>便<sup>ニ</sup>小<sup>ノ</sup>舟<sup>ヲ</sup>  
 別<sup>ニ</sup>覺<sup>ス</sup>道<sup>ヲ</sup>

西 啗

彈<sup>ト</sup>々<sup>ト</sup>人<sup>ノ</sup>居<sup>キ</sup>夜<sup>ノ</sup>月<sup>ノ</sup>花<sup>ノ</sup>三<sup>ノ</sup>層<sup>ノ</sup>も 半時庵

う<sup>レ</sup>魚<sup>ノ</sup>の<sup>玉</sup>を<sup>懐</sup>袋<sup>ニ</sup>置<sup>キ</sup> 只清

節<sup>ノ</sup>句<sup>ヲ</sup>干<sup>シ</sup>炮<sup>ヲ</sup>母<sup>ヲ</sup>子<sup>ヲ</sup>蒸<sup>ス</sup>物<sup>ヲ</sup>揚<sup>グ</sup>也<sup>ト</sup> 今

關<sup>ノ</sup>東<sup>ノ</sup>産<sup>ニ</sup>是<sup>レ</sup>塩<sup>ト</sup>と 眺<sup>ス</sup> 秋 半時庵

木<sup>ノ</sup>兒<sup>ノ</sup>よ<sup>リ</sup>初<sup>メ</sup>お<sup>と</sup>し<sup>テ</sup>呈<sup>ス</sup>多<sup>ク</sup>新<sup>ク</sup>お<sup>と</sup>し<sup>テ</sup>也 今

玄<sup>ノ</sup>猪<sup>ノ</sup>ふ<sup>レ</sup>と<sup>シ</sup>来<sup>テ</sup>例<sup>ノ</sup>の<sup>ヲ</sup>引<sup>キ</sup>也<sup>ト</sup> 只清

心<sup>ノ</sup>中<sup>ニ</sup>て<sup>シ</sup>黒<sup>キ</sup>品<sup>ノ</sup>もの<sup>ヲ</sup> 狗<sup>ノ</sup>能<sup>ク</sup>星<sup>ヲ</sup> 今

妻<sup>ノ</sup>戸<sup>ノ</sup>能<sup>ク</sup>樞<sup>ノ</sup>音<sup>ノ</sup>か<sup>ハ</sup>不<sup>ク</sup>也<sup>ト</sup> 半時庵

川口ゆくも 且つはるかり 分

復菊の香子 又まきひぬし 只清

つて<sup>傳</sup>ぎけ又虫十平 行ふく 分

森芝 此宿の岩て 若菜切 半時庵

一昔ひきき 寺へ 長羽織 分

良夜き 姫亭のひ出ま 只清

あちきつき 宮此か 田和布 此庵 分

主水 領く 那 松平志 露 半時庵

いふせん いくせん とく 左治郎 分

振向 橋く 橋く 橋 只清

思へぬ 水鉄炮もい 亦んか 半時庵

憂世 此果を 見んて ぬり百 分

唐木 かく 奥平 埴此 亦ん 達テ 只清

益 和らうの 花を 出 鐘 分

深山の 鞠此 亦ん 亦ん 春の 風 半時庵

思ひ 亦の 亦の 状ふ 亦の 只清

志やらうくと 濱の 志 亦の 化小言 分

皆老人 倦而 鼻止

更衣

西行法師

脱かえとあふと能 昨の昔衣 喚洞

野望

花置やいつとむく一能茶所の所 泉牙

雑詠

菽陰能日平整くやぬのち路 泉央

冬吟

寒菊能葉小銷き揚る夜の哉 泉柯

寄蟹患

書患の蟹能穿跡や川柳 崔獅

五月雨

風干梳くさみと逢 髪也苗砒玉 華猫

人日佳言ふまろて

涉海や車と玉く一 根白妙 読画

雪

水と塩 月日の六と一六の世 金溪

良夜

信濃 亦り寺とりの香や三五の夜 秋馬

六吟歌仙

良夜後夜晴あり

真秋森見子月の志是霜 秋等

買ふて放きと散く地ノ草 只清

なぐ籠菜かゝれ蝶々侍ぬ人 蘭水

園の随平元百々山 嵐郭

加里初結雛のて雲結必為芽 捨来

陰へ散つれくろく將舟 討橋

<sup>ウ</sup> 意雛子の啼ふるまはし二軒草屋 嵐郭

よげけりごとふへうと白眼 秋等

天上ハ西王母と冬 表六隊也 討橋

酒うかろ庚王衣履利て鳴ふ 蘭水

土着少り儂 元 桑林村の社 只清

一八生けて淫を賣る屋 捨来

探王魁を籠ふさきと夜のみ 蘭水

名もつ者も 虎犬の成ふ軒 嵐郭

澄る世の敵こりり 細豆汁 秋等

中よた波也 中よき嵐 只清

月乃かくも花の望みの二本佩 嵐郊

破球 影 ちう 跡なき 拾来 封播

いと 鶴ふのつまふも切ろ一 暁の電 拾来

木 龍 といり ちま ちろく 尺尾 秋等

おも又むと 樂しうでめを ちり 尺清

舞 ち ちり ちが 採め 人の 伯父 蘭水

蠅 絹 紗 様 ちん ちん ちん ちん 封播

懺 汰 小 あ ち 五月 雨 結 漏 嵐郊

一つ ちみ 片 理 の 原 此 採 葛 春 秋等

あがき ち ち ち ち ち ち ち ち 拾来

孫 達 き ち ち 娘 の あ ち ち ち 蘭水

叶 不 反 古 ち 焼 て ち ち 封播

ち ち ち ち ち ち ち ち ち 捨来

さ ち ち ち ち ち ち ち ち ち 尺清

ち ち ち ち ち ち ち ち ち 嵐郊

枕 ち ち ち ち ち ち ち ち ち 蘭水

雨 ち ち ち ち ち ち ち ち ち 尺清

ち ち ち ち ち ち ち ち ち 秋等



とて申す連々幸路へは峰の化  
捨采  
定紋 光は 籾も 新めく  
討糺

初秋

押照ふ也秋の初着の一夜 莖 只清

落葉

妻乞の反古かくもや谷地お 今

十々夜 到る 借光

名月を 娘嫁く 羊時庵

菜生 くらふ 今

層々松

今

清普代の 新列人

とあり 舟と 今

良夜

塩も草も花も焼く人浦砂月 奔鏡

甚暑

松斗撓に怒氣あつさゆ 李十

春

志川公者々草柳新りる也 蜷道

後月

照和系月 とも十二一壺ふ 如陽

重陽

志賀張浪乃ふ生ほりる金草 龜亭

山居

晡高し露の朝に露山梅 春巾

戊寅中秋

晴はとも 後あぬ月の神代哉 巫覓

短夜

楊花あふふと園亭夜夜の柳 胡條

更衣

柏也このよかふふとゆ 舎仙

端午

逆もふふ飛んて轉色花高蒲 梓重

十日懷菊

世あり猫と獲ふ也菊然花 寛三

六月十五夜清光

解孝及更千夜後も月の氷ふふ 捨来

春吟

く小やくとまほと方ひの柳うさ 錦水

全

浮橋とユヤと風の柳う柳 嵐邨

郊外餘寒

舟を遠し中とあつたの麦の風 只清

長閑千つてく船の橋上 春湘

掃仕也不語千高く細くして 全

松くんと破きくさ傘 只清

とく速も月と交はるる此柳 全

一里散百里秋菊ふふ谷 春湘

らんあつと羽がさす千るいせ 全

物ソひらささりやて悟るれ 只清

かろ花の春てふさく海も山 全

後三島程と吳見ふも雲ふ 春湘

而后平小く中絶つ子のく急 全

土塵を神あくる塵を衆人 只清

表といふ斗りて有ふも吹雪く 全

花能月浅き木城て升 春湘

物をこく尺余の提燈の志違お 全

川へくくと走付く 何 只清

葵荷傾おさうが吹げの借由 全

夜もあき進ん初櫻の柳 春湘

時鳥

常平久くり逢ふに初春哉 佳嵐

鶯

くちけと柳然と平らつ春哉 搜后

中元

三井寺小一日 咲ん廿郎 菖 甘繩

苦熱

不接煙と雲平すはく星と 旭川

栞

眼をさす路雲と画を結る柳 樽辰

別と此書く——と橋と此粟也 百弁  
行舟子と此舟ハさくつ舟を産田也 粟若

百中此所無と此舟持ふ

雨といふ此と身舟のりりふ 只清

百合能多と此と此のりりふ 其梁

極ハ此舟と不臺袍のりりふ 今

聲小笑い車組むなり 只清

菽くつは此舟のりりふ 今

射て取る船のりりふ 其梁

七と幸若高麦切も智像ハ此舟のりりふ 今

此舟のりりふと玉さくつと産 只清

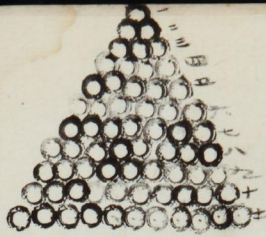
うりりりあつとさぬ方舟 立舟 今

乃より里上平川も有る舟 其梁

深螺焼く此のりりふとつ深舟 今

幣切て店名ハ此舟と産 只清

善能舟買つといふ舟名多と 今



暁人ぐれめ友のよきよ 其梁

君不見<sup>ヤ</sup>カへら地文の丸木橋 全

根ハ的次身降てり 只清

ふつ、く千有きぞうられの軒の花 全

はりびるさかやいふ永き日 其梁

夜梅

待つ猫花<sup>ハ</sup>花<sup>ハ</sup>か<sup>ハ</sup>一<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>器<sup>ハ</sup>を<sup>ハ</sup> 只清

寺前

人年厭く花又惚人入日ふ 富天

軒おろそく年胡葱の傘 只清

めつ、味う、山吹を脱多りて 全

む、く、ふ、鳩、花、舞、礼、之、り 富天

あ、ろ、と、花、夕、月、比、の、今、年、藤 全

あ、待、て、居、る、石、と、光、櫻、花 只清

地、島、花、灯、く、け、あ、や、一、夜、の、夢 全

子生は母方々 唐 富天

欠きくと分結上はも厄崇り 今

思い忘まの心結 枕 出は 只清

白雨と呵王虎まは口く控り 今

後。おる平 市 みて 幣 結 富天

おろつて投まハ松平初氷 今

頭巾平 既中はうの寄結有 只清

おれまきと蔵おまの鐘の原 今

鉦女も乳を一夜と見せ 富天

契里まふふ、まがしに返回棒 今

三 縣訛里がふめ乳いさり火 只清

およんふ里とかいこまの方踏踏賣 今

如月を新岩 寄るふれ 今

坊のぬき平えしめき電 富天

増屋新あるし 鯛 是むら 今

そめくは今末の園のまら作 只清

習い ナシ 是向し 杖字書 今

二井 佩と 誰をへき 躍り 富天

月ハ氣宿年依袋目ク傍 全

憎古多ク在遠眼ツルハモ五十崔 只清

患一キ語ヲ掃ムテ掃ク 全

益飯と云年ハクク等と由以テ濱 富天

其之ハ酒ハ被クク 全

又建テ却合十朝夕等々 全

大モ出ク及収ト出ハ被ク 只清

山風年ハ消色如名珠板ノ巻 富天

進上 中一 松系一 禮 全

春日和シ花年 打人也 芥水 只清

芥水痕重キ喜ノ梁 執筆

年内立春

元方と神 年 岩井 北初水 春堂 在東武

七夕

物換里 七言もくや 七言 岸和田 双我

小春詠

浪花

茶末花卷也 日も替りくく夕烟 莪陵



海濱の草を待た柳の柳 佳方

名月打く晴る

後とまゝの角一男や楊の影 舎持

冬

半紙の家の新也雪ふし 横竹

春

菜花を也向初と所くの船口 後古

菜花や晴晴とゆきと生れ東山 竿秋

跋

或は海を友年松の種別  
をたよ伊く種と留る事あり  
輯して之は有者と数をは  
つは子之強ふ平の宗久  
賦ををさ中をを別する久  
一見軒の松丸

清江堂



